

乳児期から約 30 年のステロイド使用後に 3 か月で社会復帰した成人アトピーの経過 (34 歳 女性)

症例 ID：001-30-SM3 | 記録日：2016 年 2 月 3 日

1. 診断・治療前経過

乳児期からアトピーがあり、30 歳頃まで外用ステロイドを使用し、時期によっては内服ステロイドも約 1 年間使用しました。皮膚の菲薄化、体毛の増加、顔の腫れなどがみられました。

29 歳頃に手掌症状が強くなり、30 歳頃に治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期から外用ステロイドを使用し、中学生以降には顔にも使用しました。内服ステロイドを約 1 年間使用した時期があります。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	乳児期から 30 歳頃まで約 30 年間です。
中止時期	30 歳頃の治療開始時です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
乳児期～30 歳頃	長期使用	関節部から顔・全身へ症状が広がり、外用と内服ステロイドを使用しました。
29 歳頃	手掌悪化	手掌の症状が強くなりました。
30 歳頃	治療開始	ステロイドを中止し、煎じ薬、漢方入浴、外用処置を開始しました。
開始後約 3 か月	症状の強い時期	耳下、手、足、鼠径部から浸出液が出て、強いかゆみが続きました。
開始後約 6 か月	生活変化	手の症状に対して綿手袋を使用しながら生活しました。
開始約 3 か月以降	社会復帰	体力が戻り、職業訓練校へ通った後に就職しました。
2016 年 2 月	経過中	むくみは残るものの、通常の生活を送っていました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後約 3 か月間、耳下、手、足、鼠径部から浸出液が出て、手の症状により綿手袋が必要だった時期です。

5. 困りごと

- ・長年の外用で皮膚が薄くなり、軽い刺激でも出血することがありました。
- ・内服ステロイド中に顔が著しく腫れ、写真撮影を避けるようになりました。
- ・治療初期は家族や周囲の生活支援が必要でした。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

時期	総 IgE	TARC
2012 年 7 月 25 日	134	—
2012 年 12 月 14 日	4950	—
2013 年 6 月 7 日	3935	—
2013 年 11 月 9 日	3587	—
2014 年 10 月 17 日	1094	548
2015 年 12 月 29 日	1300	329
2016 年 2 月 2 日	908	372

7. 経過のまとめ

治療開始約 3 か月後には体力が戻り、職業訓練校を経て就職しました。

2016 年 2 月時点ではむくみが残るものの通常生活を送り、総 IgE もピーク時より低下していました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。